

中学校部活動の地域移行（展開）って何？？

学校が担ってきた部活動を地域クラブ・団体等へ段階的に移行する政策です。

休日の部活動は令和7年度末までに約54%が地域へ移行する見込みです。

そこで、これからどうなるの？何でそうなるの？課題は？素朴な疑問を聞いてきました！！

◇座談会メンバー

情報活動部 仲沢部長、甲府市教育委員会 大森指導主事、甲府市P連 相山会長

甲府市の今

相山：甲府市ではどのような取り組みをされていますか？

大森：令和4年度から年3回の検討委員会で段階的に進めています。市P連からも出席いただき、ご意見いただいていますね。6年度は3種目、7年度は5種目、計8種目を地域移行しました。周知はリーフレットとホームページで強化しています。

なぜ？

仲沢：そもそもなぜ地域移行なのですか？

相山：少子化で部活動の運営が難しくなっているし、先生方の働き方改革も影響してますね。

大森：全国的にも各種調査で顧問に負担を感じる教員が5～7割という結果が出ています。土日の引率でも代休が取りにくく、平日の長時間勤務もあり、多忙化は深刻です。

仲沢：先生もお休みが必要ですもんね。

保護者の気がかり

仲沢：良い所は専門的な指導が受けられる・学校横断の交流が生まれる・先生方の負担軽減ですね。でも、費用増加や送迎の負担・地域差も気になります。

相山：今までの部活動は「学校にお任せ」の安心感はありましたが、学校側の負担が積み重なってきたのも事実ですね。子どもの体験機会を広げる新しい仕組みが必要だと感じています。

大森：多角的な意見をいただきながら、甲府市の子どもたちが活動できるように引き続き運営していきたいです。

指導体制と今後

仲沢：現場の指導は誰がされていますか？

大森：市スポーツ協会の種目団体を中心に、スポーツ少年団の指導者、教員、大学生などです。

仲沢：今後の課題は何ですか？

大森：課題は指導者の数と質の確保です。指導者だけでなく指導者をサポートするスタッフも募集しますのでぜひご協力ください。

選択肢を広げる動き

相山：甲府市は新しい部活動として様々な活動を推進していますね。

大森：並行してスポーツに親しむ機会の創出も実地しています。陸上、ラグビー、ウォーキング、ブレイキン、アルティメットなどです。

仲沢：子どもの興味もダンス、競技かるた、登山、総合格闘技、プログラミング、eスポーツまで幅広いですよね。「時代」ですね。

相山：部活動地域移行検討委員会には保護者代表として市P連から出席しています。

今後も様々な声を届けていきたいと思います。

仲沢：子どもの関心を大切にしながら、バランスの取れた選択肢が増えていくことを願います。

子どもが自分らしい道を選んで進んでいけるよう見守っていきたいですね。

相山・仲沢：本日はありがとうございました。

【座談会の要旨をまとめました】

- 定義・予定：部活動の地域移行とは、学校が担ってきた部活動を地域クラブ・団体等へ段階的に移行する政策である。令和7年度までを「改革推進期間」、令和8年度以降を「改革実行期間」とし、政府広報によると休日の部活動は令和7年度末までに約54%が地域へ移行する見込みである。
- 市の実施状況：甲府市は令和4年度より検討委員会を年3回開催し、段階的に地域移行を進めている。令和6年度に3種目、令和7年度に5種目、合計8種目の地域移行を行った。また、各スポーツ協会の種目団体やスポーツ推進委員と協力し、複数の種目を体験できる機会を充実するため「マルチスポーツクラブ」を開催。陸上、ラグビー、ウォーキング、ブレイキン、アルティメットなど。周知はリーフレット作成および甲府市ホームページ掲載により強化している。
- 背景：少子化により学校単独での部活動運営が困難化している。加えて、教員の長時間勤務や休日引率に伴う代休取得困難等の理由により、部活動顧問の負担感が強い。複数の調査で、全国的にも顧問に負担を感じる教員は概ね5~7割と示されている。
- 想定される利点：元プロや専門家などの経験豊富な指導者から専門的な指導を受けられる・複数校の生徒による交流及び多種多様な体験機会の創出・教員本来の業務に専念できる。
- 懸念される課題：月謝や交通費など新たな出費・費用負担、校外活動で送迎機会の増加、受け皿となる団体・施設の地域差。指導者の確保（人数・質）および施設調整・大会参加の運用整備。
- 指導体制：市スポーツ協会所属の種目団体を中核とし、①スポーツ少年団指導者、②教員（兼職兼業）、③大学生等。
- 市P連の関与と情報提供：甲府市P連は地域移行（展開）検討委員会に出席し、保護者の意見集約と関係機関連携を担う。報告はホームページ等で公開している。